

令和7年度 県立常陸大宮高等学校自己評価表

別紙様式2（高）

目指す学校像	○ 一人一人を大切にし、誰もが安心して学べる温かみのある学校 ○ 多様性を尊重し包摂的な意識を育む学校 ○ 個に応じた学力を保証し、確かな進路実現力を育てる学校 ○ 自らのよさや可能性を認識し、適切な自己決定ができる力を育てる学校 ○ 地域や多様な人材とつながり、持続可能な社会づくりに貢献する学校		
三つの方針		具体的目標	
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	○ 自らの個性や強みを深く理解し、肯定的に受け止めることで、日常生活や社会生活において適切な自己決定ができる力 ○ 個々の学力を基盤としながら、自らの興味・関心や適性に応じた目標を設定し、その達成に向けた粘り強い取り組みにより、生涯にわたって学び続けようとする力 ○ 多様な立場や価値観を理解し、思いやりと他者尊重の心をもって他者と関わることで、信頼と協力に基づく人間関係を築き、協働してより良い社会の実現に貢献しようとする力 ○ 地域の一員としての自覚を持ち、地域の課題に関心を寄せ、地域社会の活性化や持続可能な社会の実現に向けて当事者意識を持って参画し、主体的に行動する力	
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	○ 一人ひとりに寄り添った学習指導の推進 ○ 主体的・対話的で深い学びの実現 ○ 多様性を尊重しながら、共に学び協働する力の育成 ○ 安心して学べる学習環境の整備 ○ 個の特性に応じたきめ細やかな進路支援の実施	
	「入学者の受入れに関する方針」(アドミッション・ポリシー)	○ 安心できる学びの場の中で、自分らしく学びたいと願う生徒 ○ 他者との違いを前向きに受け止め、多様な価値観や背景への理解・尊重に向けた意志のある生徒 ○ 進路実現に向け、粘り強く取り組む意志のある生徒	
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
＜成果＞ 普通科、機械・情報技術科、商業科を有する特長を生かし、幅広い選択科目を設定し	教育課程の充実	①「個々のよさや才能を開花させる基盤づくり」 ○ 入学生の実態を詳細に分析し、一人一人の学習状況に対応した習熟度別・少人数学習を実践する。 ○ 各学科の独自性と強みを最大限に活かした特色ある教育課程を編成・実現する。 ○ 多様な進路希望に柔軟に対応できる教育課程を整備する。	B

* 評価基準 A: 十分達成できている B: 達成できている C: 概ね達成できている D: 不十分である E: できていない

令和7年度 県立常陸大宮高等学校自己評価表

たり、課外活動を充実させることにより、資格取得や個々の希望進路の実現に力を注いでいる。 ＜課題＞ 令和3年度入学生から、機械科、情報技術科の2学科が、機械・情報技術科の1学科になったことに伴い、教育課程やコース制を柔軟かつ円滑に運営することが求められる。 また、本校の教育目標である、次の1～4を達成するために、地域や関係機関との交流・連携を深め、進学・就職と多岐にわたる進路希望の実現を継続していくことが求められる。 1 一人ひとりの個性を生かし、学ぶ意欲や創造性を育む。 2 豊かな人間性や社会性を育む。 3 健やかに生きるための丈夫な身体を育む。 4 産業社会の発展に貢献できる力を育む。	学習指導の充実	②「知る喜びと探究心を育む学びの場の創造」 ○ ICTの効果的活用により、学習内容の理解度向上と学習意欲の喚起を図る。 ○ 各種テストによる理解度の可視化と、それに基づく個別最適化された指導を通じて、基礎・基本の確実な定着を実現する。 ○ 観点別評価を用いた学習評価により、個々の課題を明確化し学習意欲の向上につなげる。 ○ 高度な問題への挑戦機会の提供など、進学希望者向けの個別指導を充実させ、学力の更なる伸長を図る。 ○ ICT教材の研究開発、教員間の授業相互参観、教科内連携・研修を通じて、指導の質的向上と革新を推進する。 ○ 問いの立て方や情報収集・整理分析・まとめ・表現の指導を充実させ、自ら課題を発見し解決する探究的な学びを推進する。	A
	進路指導の充実	③「未来を切り拓く力の育成」 ○ 傾聴力・表現力・社会人基礎力を段階的に育成する3年間一貫の指導体系を構築し、進路実現力の向上を図る。 ○ 外部専門家との連携、インターンシップ・デュアルシステム、進路説明会への主体的参加を通じて、キャリア意識の醸成を促進する。 ○ 学習意欲の喚起と計画的な課外授業の提供により、大学進学に対応できる確かな学力の獲得を支援する。	B
	生徒指導の充実	④「自律と共生の精神を育む」 ○ 多面的な生徒理解のため、個別面談、意識調査、家庭訪問、特色あるホームルーム活動を積極的に展開する。 ○ 挨拶・身だしなみ等のマナーの重要性を理解させ、社会性と基本的生活習慣、規範意識の確立を促進する。 ○ ボランティア活動への参加を奨励し、社会の一員としての責任と自覚を養う機会を創出する。 ○ 学校・家庭間の緊密な情報共有体制を構築し、問題行動の未然防止および早期解決を図る。	B
	特別活動の活性化	⑤「協働と挑戦を通じた成長の場の創出」 ○ 新入生の部活動への積極的参加を促し、学校全体の活力向上と、規律ある生活態度・自律性を備えた生徒の育成を図る。 ○ ホームルーム活動、委員会活動、生徒会活動の内容を充実させ、全ての生徒が自主的・主体的に参画できる環境を整備する。	C
	キャリア・パスポートの積極的活用	⑥「自己成長の軌跡を記録した、未来への道標」 ○ 授業、学校行事、部活動などの多様な経験において自己目標を設定し、定期的な振り返りと修正を通じて、自分らしい生き方を模索する力を育む。 ○ 地域社会や企業との連携を通じて、学びと働くことの意義を考察し、現在の学習と将来像を有機的に結びつける視点を養う。	B

* 評価基準 A: 十分達成できている B: 達成できている C: 概ね達成できている D: 不十分である E: できていない

令和7年度 県立常陸大宮高等学校自己評価表

		地域連携の推進	⑦「開かれた学校づくりと地域貢献」 ○ 学校ウェブサイトの内容充実により、保護者・地域・中学校等への効果的な情報発信を強化する。 ○ 学校外からの意見や評価を積極的に取り入れ、学校・家庭・地域社会の三位一体による教育活動を展開する。 ○ 地域行事やキャンペーンへの積極的な参加を奨励し、地域社会との連携強化と生徒の活躍の場の拡大を図る。	B		
		働き方改革の推進	⑧「教職員の専門性と創造力を最大化する環境整備」 ○ 業務の性質に応じた適切な役割分担（学校外が担うべき業務、教師以外が担当可能な業務、教師の負担軽減が可能な業務）を見直し、教員の本来業務への集中を可能にする。 ○ 勤務時間の可視化管理、各種活動の時間設定の適正化、学校閉庁日の設定、ICT 教材の共有化により、意識改革と時間外勤務の抑制を図る。 ○ 教職員間の相互理解と協力体制を強化し、業務負担の平準化と職場環境の改善を推進する。	B		
		授業改善の推進	⑨「未来を見据えた学びの質的転換」 ○ 全教職員による授業研究協議の場を定期的に設け、多様な視点からの改善アイデアを共有し、教科横断的な学びの機会を創出する。 ○ 育成すべき資質・能力を明確にした上で、授業の各要素（ねらい、課題、発問、板書、まとめ、振り返り）を工夫し、評価項目を可視化して生徒と共有することで、授業の質的向上を図る。 ○ 生徒からのフィードバックと教員間の相互評価に基づき、理想の授業像を追求し継続的な改善を行う。 ○ 教科特性と生徒の実態に応じた最適な ICT 機器の活用により、多様な学習形態と表現方法を実現する。 ○ 指導計画、教材、教授資料の組織的共有を促進し、効果的・先進的な取り組みを学び合う文化を醸成する。 ○ 生徒による授業評価において、授業満足度（KPI）3.4 以上の達成を目指す。	A		
評価項目		具体的目標	具 体 的 方 策		評 価	次年度（学期）への 主な課題
	国語	基礎学力の向上 と定着	言語活動を通して、実社会において求められる思考力・判断力・表現力等を育成するとともに、実生活に生きる国語の知識や技能の定着を図るため、生徒の実態や社会の変化に応じた単元目標の具体化を行い、指導方法および学習評価の一体的な改善を進める ②		A	A ICT 機器の効果的な活用を含む多様な授業手法を共有・検討することで、指導の質を高め、生徒が自ら考えを言語化する学習場面をより意図的に設定する必要がある。また、ペア・グループでの協働的な学習活動においても、役割や目的を明確にすることで、対話が形式的にならない授業設計を行うことが課題である。
		ICT の活用と主体的・対話的で深い学びの実践	生徒が言語の働きに対する理解を深めながら、主体的に学習に取り組み、対話的な学びを通して多様な考えに触れ、思考し表現する力を高められるよう、ICT（タブレット端末や電子黒板等）の効果的な活用や、ペア・グループでの協働的な学習活動を取り入れた授業づくりを推進する ②⑨		B	
		授業改善	生徒による授業評価（KPI）の平均が 3.4 以上になるよう、教材の内容や学習活動と生徒の関心・生活との関連を意識し、学びの意味を実感できるような授業改善を図る ②⑨		A	

* 評価基準 A: 十分達成できている B: 達成できている C: 概ね達成できている D: 不十分である E: できていない

令和7年度 県立常陸大宮高等学校自己評価表

各 教 科	地理 歴史	基礎・基本の定着	教材の精選と分かる授業の展開を図る	②	A	B	教材の精選とわかる授業の展開、ICTの活用については、各々が教材研究を通じてより効果的な方策を模索し、授業内で実践することができている。一方で、授業内における言語活動や思考力育成の部分で改善の余地がある。
		主体的に活動させる授業実践	教材・教具の工夫や ICT を活用した授業の展開を図ると共に、個別最適な学習の実現にむけた授業改善を行う	②	B		
		授業改善	授業満足度（KPI）の平均が 3.4 以上になるように授業改善を行う	②⑨	B		
	公民	基礎・基本の定着	教材の精選と分かる授業の展開を図る	②	A	B	
		主体的に活動させる授業実践	教材・教具の工夫や I C T を活用した授業の展開を図ると共に、個別最適な学習の実現にむけた授業改善を行う	②	B		
		授業改善	授業満足度（KPI）の平均が 3.4 以上になるように授業改善を行う	②⑨	B		
	数学	個別最適な学習支援	習熟度によるクラス編成や自由進度学習等、個に応じた学習支援を行い、数学の学びに対する苦手意識を緩和し、基礎学力の定着を図るとともに自己肯定感を高める。	②⑨	B	A	人数は少ないものの、学習のつまづきが人それぞれで、演習を自分で解き進めることが難しい生徒が多く、習熟度での編成にも限界がある。学年・クラス全体を見ながら柔軟なクラス編成を行ったり、支援方法を検討したりする必要がある。
		学びに向かう態度の醸成	探究活動や ICT 機器の活用など、単元に応じた様々な働きかけを行い、学習意欲を高める	②⑨	A		
		授業改善の推進	他教科との連携を通じた STEAM 教育や、教科内での情報交換・教材共有を積極的行い、授業展開を見直し、授業満足度（KPI）の平均が 3.4 以上となるよう授業改善を図る	②⑨	B		
理科	基礎学力の定着	理論の有用性に気付き、主体的に学ぶ姿勢が向上するような授業を実践する	②	B	B	ICT を活用したり 実験観察を行ったりして、興味関心を引き出す工夫を行っている。しかし、学習に対する意欲が低く、基礎知識の定着も不十分な生徒や思考力の向上まで至らない生徒がいる。そのため、次年度は、内容や活動の精選を行い、主体性の育成に取り組む。	
	実験・観察の充実	生徒の意欲・関心を高める実験・観察を積極的に取り入れた授業展開を図る	②	A			
	主体的・対話的で深い学びにつながる授業実践	調べ学習、グループワーク、振り返り等の実施や、ICT 機器の適切な活用により、主体的・対話的で深い学びの実践を目指す	②⑨	A			
	授業改善	授業満足度（KPI）の平均が 3.4 以上になるよう、教科・科目の特性を生かした授業改善を図る	②⑨	B			
保健 体育	技能の定着	個・グループの実態に応じた指導方法の工夫と反復練習により、技能の定着を図る	②	B	A		グループ活動や合意形成を図る場面を継続的に形成する。体育が苦手な生徒に対しては、個にあった課題を設定し、ICT 等を活用して、わかる・できる授業づくりをすることで、主
	主体的に活動させる授業実践	教材・教具の工夫や ICT を活用した授業の展開を図り、主体的に学びに向かうことができるように授業改善を行う	②	A			
	運動器具・設備等の安全管理と確保	体育用具・設備の安全管理の徹底を図る安全点検を定期的実施する	②	A			
	授業改善	授業満足度（KPI の平均が 3.4 以上になるように授業改善を行う	②⑨	A			

* 評価基準 A: 十分達成できている B: 達成できている C: 概ね達成できている D: 不十分である E: できていない

令和7年度 県立常陸大宮高等学校自己評価表

各教科						体的に取り組める授業展開をする。
	芸術	基礎・基本の定着	個人に応じた課題を設定し、音楽に関する基礎的な知識と技能の定着を図る（音楽）	B	B	次年度も継続して、生徒の意欲を高めるため、興味関心を持てて、かつ基本的知識や技能の定着を図る題材を工夫する。
			色彩練習による美的感覚と鑑賞能力の育成を図る（美術） ②	B		
		興味・関心の向上	多様な作品の学習によって音楽への興味関心と自己表現力の向上を図る（音楽） ②	B		
			作品の鑑賞及び制作を通して自己表現力の向上を図る（美術） ②	A		
		授業改善	授業満足度（KPI）の平均が3.4以上になるように授業改善を行う ②⑨	A		
	外国語	基礎学力・基本事項の定着	主体的な学びを推進し丁寧な反復指導により基礎・基本の定着を図る ②③	A	A	ペアワークや読み合わせなどの活動を積極的に取り入れ、発話などのアウトプットを意識した授業の実践に通じ組む。TTの実践を継続し、授業での理解を高めるよう努力を継続する。
		興味・関心の向上	ICTなど教育機器を適切に活用し、生徒の英語への苦手意識の解消を図る ②③	B		
		個に応じた学習指導の充実	生徒の実態や進路希望に応じた支援体制を構築する ②	A		
		授業改善	授業満足度（KPI）の平均が3.4以上になるように授業改善を行う ②⑨	A		
	家庭	基礎力の定着	生徒の個性や強みを理解し、個に応じた授業内容の工夫ときめ細かい指導の実践を図る ②	A	A	生徒の実態に合わせた課題や実習を取り入れ、生活に役立つ知識や技能を身につけることができた。授業改善を継続し、KPI3.4をめざす。
		実験・実習等の教育環境の充実	安心して学べる環境の整備と安全に配慮した実験・実習等の充実を図る。ICTを効果的に活用し教育内容の充実をめざす ②	A		
		授業改善	授業満足度（KPI）の平均が3.4以上になるように授業改善を行う ②⑨	B		
	情報	パソコンの基本的な操作の習得	コンピューターに関わる基本的な用語及び知識の理解と定着を図る ①	B	A	例年に比べ、プログラミングに関する内容について生徒が積極的に取り組んでいる様子が見られるとともにKPIも3.4を超えたことから授業改善の内容が生徒の実情とかみ合ったと思われる。
			基本的なプログラミングについての知識習得を図る ①	A		
		授業改善の推進	教科の枠を越えた相互授業参観や、他校の実践例の視察・視聴等を積極的に行い、STEAMやPBL等、授業展開の仕方を見直し、年度末の授業満足度において、KPIの平均値が3.4以上となるよう、「学びの楽しさ」を実感できる授業を展開する ②⑨	A		
		ネットワーク利用のモラルの定着	生徒の興味・関心のある教材を活用した指導の工夫を図る ①	A		
	機械・情報技術科	実践的な能力と態度の育成	座学と実験・実習を横断的に取り入れることで、基礎学力の定着および集中して話を聴く姿勢の育成を図る ①②④	A	B	実習や資格指導では実践的な知識・技能を養うことができた。ものづくりマイスターやICT機器を活用し、実用的な技術教育を積極的に実践した。新規の資格取得の課外や実習項目の実施を行うことができた。次年度は、これ等を
		安全の確保や事故の防止	実習項目として安全教育を取り入れ、その充実及び事故防止に向けた安全管理の徹底に努める ④	B		
		各種資格の取得	授業や補習をととして、資格取得の支援に努める ②③	A		
		授業改善	授業満足度（KPI）の平均が3.4以上になるように、ICT機器等を使用し授業改善を行う ②⑨	A		

* 評価基準 A: 十分達成できている B: 達成できている C: 概ね達成できている D: 不十分である E: できていない

令和7年度 県立常陸大宮高等学校自己評価表

						発展させ他学科、教員間での連携を密にし、さらに充実した授業展開を目指す。
	商業科	コミュニケーション能力の育成	地域住民や企業との協働を促進することで、販売実習等の体験的な学習を通し、社会人基礎力が醸成されるような活動を推進する ②③⑦	A	B	地域・企業と連携した体験的な学びや主体性を引き出す授業ができた一方、生徒理解や個に応じた支援、ICT活用には工夫が必要である。実践的・協働的な学びを基盤に、ICTを生かした指導の質を高め、生徒の成長を支える教育活動の充実を図る。
		商業教育のスキルアップ	生徒一人ひとりの理解度や能力を把握し、個々の目標や課題に寄り添った支援に努める ICTを効果的に活用し、教材の共有や個に応じた支援、情報活用能力の育成を図る ①②⑧	B		
		授業改善	授業満足度（KPI）の平均が3.4以上になるよう、生徒の興味・関心と実学的な学びを意識し、生徒が主体的に参画できるような授業改善を図る ②⑨	A	A	

評価項目	具体的目標	具 体 的 方 策	評 価	次年度への主な課題
教 務	校務全般の円滑運営を図る	中学校訪問等を通して、本校の取り組みや長所を積極的に広報し、入学希望生徒の拡充を図る ②	A	A ・教員や生徒の協力の のもと、複数回の学校 説明会を実施するこ とができたが、会全体 の改善を図り、参加者 の人数を増やす方策 が求められる。 ・オンライン授業の 在り方やその評価法 などについて、内規を 含めて検討・整備して いく必要がある。 ・ICT において、先進 的な活用を行っている 教員の実践例を全 体で共有できる機会 を設ける必要がある。
		各校務分掌や学年との情報交換を密に行い、適切な連携・調整に努める ②⑨	A	
		各分掌の企画や業務内容を把握し、的確な調整を行い、円滑な学校運営に努める ⑧	A	
	行事等の円滑な企画・運営	教務部内の業務を複数人で担当することで、業務量の平均化を図る ⑧	B	
		年間・月間計画の企画・立案と適切な変更・調整に努める ②⑧	A	
	成績不振者等への適切な対応	定期考査の事前指導を適切に行い、生徒への周知徹底を図る ②	B	
		成績不振・遅進者に対する課外指導・個別指導等を、教科・学年と連携し、年間を通して計画的に行う ②	A	
		欠課時数の多い生徒に対して、適切な指導に努める ②	A	
		成績や欠課時数に関して、学年と連携し、生徒及び保護者等への早期対応に努める ②	A	
	適切な情報管理	成績処理と事務処理の効率化を図る ①②	A	
		ICT を活用した授業の充実を図れるよう、電子黒板やタブレット端末等の機器管理や研修の充実に努める ②⑨	B	
		ホームページなどを有効活用し、校外への情報発信の充実を図る ①～⑥	A	
		校内ネットワークの保守管理及び個人情報の管理の徹底を図る ①～⑥	B	
	働き方改革の推進	業務内容の見直しと効率化に取り組み、時間外勤務の削減を図る ⑧	B	
	基本的生活習慣	挨拶の励行を主眼とした、計画的な登下校指導等を行う ④	B	B 問題行動（いじめを含む）
		遅刻を防止する「遅刻カード」の利用及び指導の徹底を図る ④	B	

* 評価基準 A: 十分達成できている B: 達成できている C: 概ね達成できている D: 不十分である E: できていない

令和7年度 県立常陸大宮高等学校自己評価表

生徒指導	の確立	服装・頭髪に関する教職員の共通理解と、家庭との連携の徹底を図る ④	B		及び交通事故の総数はR7年度は減少傾向にある。その背景には、生徒の実態(特性)に即した対応(きめ細やかな指導で生徒から職員が信頼を得て、相談しやすい環境の醸成)及び支援の成果である。次年度も問題行動及び交通事故に関する未然防止教育の更なる充実と継続を図るとともに、規範意識の向上を基に、スマートフォン(SNS等)の正しい利用方法などを定着させていきたい。
	規範意識の向上	規範意識の確立やマナーの向上を目指し、全校集会・学年集会・HR・ICT等を活用した指導を促進する ④	A		
		規範意識の向上を目指し、ボランティア活動及び特別指導の内容の充実を図る ④	A		
	安全で充実した学校生活の実現	問題行動(薬物等)や交通事故の未然防止を目指し、学校内外における計画的な巡視指導を行う ④	A		
		自転車・バイクの点検と実技指導を計画的に実施する ④	A		
	社会の変化に対応する能力の育成	携帯電話・スマートフォン、SNS等の正しい利用方法の指導の徹底を図る ④	B		
	働き方改革の推進	業務内容の見直しと効率化に取り組み、時間外勤務の削減を図る ⑧	A		
進路指導	進路意識の高揚	生徒・保護者への適切な進路情報の提供に努める ③⑥	A	A	・3年間を見通した計画的なキャリア意識養成を実施するために、学年との連携を継続的に図る。 ・学年での計画的なキャリアセミナーの実施を進める。学年の枠を外した講演会等の計画を検討する。 ・進学説明会の積極的な呼びかけを行う。 ・ICT化による願書や調査書の書式を教務・学年を交えて統一化を図る。 ・進路職員に明確な役割を持たせて校務を運営する ・ハローワークとの連携を継続し、就職活動に生徒への就業感を
		生徒面談の励行に努める ②③④	A		
		年度初めに進路適性検査・職業適性検査を実施し、結果を効果的に活用する ③	A		
		キャリア教育を学年と共に計画的に実施する ③	B		
		ジョブナビセミナーにおける社会人講師の積極的な活用を推進する ③⑥	A		
		進路資料を効率的に閲覧できるよう改善を図る ③	A		
		キャリアアップ・ガイドブックの内容を精選し、活用方法の工夫を図る ③	B		
		進路決定報告会を計画的に実施する ③	A		
		事前・事後指導を工夫して、効果的なインターンシップを実施する ③	A		
	進学率の向上	オープンキャンパスへ自発的に参加できるように情報発信の方法等を工夫・改善する ③	A		
		総合型選抜・AO入試・推薦入試に向けた面接指導を学年と連携して行う ③	B		
		模試・課外への参加を呼びかけ、自己実現を図れるよう適切な支援を行う ②③	B		
	就職内定率の向上	職業安定所と密に連携(所長、学卒担当講話・ハローワーク訪問等)を図る ③⑥	A		
		WEB求人を活用した求人情報の提供に努める ③	A		
		卒業生の就職先への企業訪問及び求人要請訪問を計画的に行い、求人者数の確保を図る ③⑥	A		
		生徒の応募前職場見学について複数社見学を行い、早期離職の防止を図る ③④	A		
		模擬面接指導を系統だてて実施できるよう学年と連携を図る ③④	A		
		就職合同面接会への積極的な参加と事前・事後指導の徹底を図る ③	A		

* 評価基準 A: 十分達成できている B: 達成できている C: 概ね達成できている D: 不十分である E: できていない

令和7年度 県立常陸大宮高等学校自己評価表

	学力の向上	基礎学力診断テストの実施と分析結果を、学年やHRでの指導に活かせるよう情報提供に努める ②③	B		持たせる。
	働き方改革の推進	業務内容の見直しと効率化に取り組み、時間外勤務の削減に努める ⑧	B		
保健図書	一人ひとりの個性を生かし学ぶ意欲や創造性と生きるための丈夫な身体を育む	生徒の実態に応じた、専門家による学年別性教育講話を実施する ⑥	A	B	・各種講話や訓練を通して、生徒の心身の健康・安全に関する意識の向上を図り、また、校内の学習環境整備に努める。 ・多様化する生徒に対して柔軟に対応していくために、引き続きSCやSSW、特別支援巡回等を活用し支援体制を構築していく。 ・図書館の環境整備と生徒・教員のニーズに合った選書に努め、利用を促進する。 ・委員会活動を工夫する。
		心身の健康状態の把握に努めながら、適切な指導・援助に努める ⑥	A		
		修学旅行前に保健調査・健康相談等を効果的に行い、事故防止の徹底を図る ⑥	A		
		保健便り等を活用し、生徒及び保護者の健康意識の高揚を図る ⑥	A		
		多様化した生徒に対応する支援体制の構築を図る ⑥	B		
	健康・安全に関する環境の整備と校内の美化を地域と連携し努める	飲料水・プールの水質検査を計画的に行い、事故の未然防止を図る。加湿器や空気清浄機等の適正な管理により、教室環境の整備に努める。 ⑥	A		
		年2回の防災避難訓練を通して、地域と連携して防災意識の向上をはかる。 ⑥	A		
	図書館利用の推進	図書や資料に関する適切な情報の提供に努める ③	A		
		「朝の読書週間」を実施することにより、読書に対する興味関心の向上を図る ⑤	A		
		興味関心を惹きつける選書をし、読書意欲の向上を図る	B		
		委員会活動の活発化に努める ⑤	C		
特別活動	生徒会活動の充実	生徒の代表として、全校生徒の意見を集約し、各種行事の企画・運営に反映していけるよう努める ④⑤⑥	C	B	各行事については、生徒会および各委員会が分担・協力し、生徒の意見を集約しながら主体的に企画・運営を行うことができた。生徒主体の行事運営初年度なので、各行事での反省を次年度に繋げられるよう継続支援に当たる。 部活動については、依然として加入率の低さが課題であるものの、昨今の情勢を考え、次年度以降については部活動の在り方についても検討していく必要がある。
		生徒会活動をとおして、主体的にPDCAサイクルを回し、協同して課題解決に向かうスキルを醸成する ②⑤⑥	B		
	委員会活動の充実	生徒が主体的に学校運営にかかわる機会を増やし、当事者意識をもって学校生活を送ることで、学校への帰属意識を高めるとともに自己有用感を育む ⑤⑥	B		
		生徒、教員の希望を尊重し、配置をすることで、内発的動機付けからくる創造性・自主性の向上を図る ⑤⑧	B		
	行事内容の見直し	苦手な人も得意な人もみんなが楽しく参加できるよう、ユニバーサルデザインを意識した行事の企画、運営を行う ④⑤	A		
		クリーンアップの時期や方法・ルートなど、内容について再検討を行い、より効果の高いものとする ④⑤⑥	B		
		芸術鑑賞会をとおして、普段の生活で触れる機会の少ない質の高い芸術に触れることで、生徒の感性を刺激し豊かな情操を養うとともに、知的好奇心を高める ②	A		
	部活動の充実	部活動の参加率の向上を目指し、部活動をとおして自己理解を深め、他者と協調する機会をつくり、自己実現を促す ⑤	C		
		ホームページやSNS等を活用し、活動状況を定期的に発信することで認知を広め、生徒の加入を促す ⑤	D		
	働き方改革の推	業務のDX化や教員の資質を踏まえた業務分担を行うことで効率化を図る ⑧	A		

* 評価基準 A: 十分達成できている B: 達成できている C: 概ね達成できている D: 不十分である E: できていない

令和7年度 県立常陸大宮高等学校自己評価表

	進				
渉 外	P T A 活動の推進	保護者と連携し情報交換に努めることで、PTA 総会や定例の評議員会を企画し、組織の円滑な運営を図る ⑦	B	B	PTA 活動への参加を促し、活動を活性化させる。同時に、参加する会員に負担が過度にならないように業務を精選・改善する。
		PTA 活動の運営を通して、保護者の本校 PTA に対する理解を深め、教員との協力関係を築く ⑦	B		
		PTA だよりの発行や、ホームページへの記事掲載を通じて、広報活動の充実を図る ⑦	B		
		ICT 化を推進し、学校と保護者間の連絡手段のデジタル化を図る ②⑧	B		
	同窓会活動の企画・運営	同窓会入会式の運営に加え、同窓会員との情報交換、連絡、調整に努める ⑦	A		
	働き方改革の推進	業務内容の見直しと効率化に取り組み、時間外勤務の削減を図る ⑧	A		
評価項目	具体的目標	具 体 的 方 策	評 価		次年度への主な課題
第 1 学年	集団における生活習慣の確立	あいさつを大切にし、集団生活のルールや公共のマナー・モラルをしっかりと守ろうとする気持ちを育てる ④⑥	A	A	集団生活においては、挨拶や時間を守る行動、規則正しい生活リズムの定着が進み、基礎学力についても学習習慣の形成により成果が見られた。一方で、主体的に学習に取り組む姿勢には個人差があり、継続的な支援が必要である。次年度は、学習状況に応じた個別指導や授業改善を進めるとともに、体験活動を通じた進路指導や責任感・協働意識の育成を図る。また、情報リテラシー教育と ICT を活用した業務効率化を推進し、働き方改革を進めることを課題とする。
		生徒の様子を正しく理解し、職員や保護者と協力して問題を未然に防ぎ、早く気づけるようにする ④	A		
		整理整頓、清掃を徹底し、教室環境の整備・美化に努める ④	B		
	基礎学力の定着および学びに向かう態度の醸成	基礎学力の大切さを伝え、毎日の授業を大事にしながら、学ぶ意欲と学力の向上を図る ①②	A		
		教科担当者との連携を密に行い、成績不振の生徒に対して個別に応じた指導・支援を行う ②	A		
		資格試験や検定試験へ積極的に挑戦できるよう支援し、合格・取得に向けたサポートを行う ②③	A		
	進路指導の充実	進路行事などの意義を丁寧に伝え、自分の将来を見据えて主体的に取り組む態度を育む ③	A		
		進路行事を中心に、様々な進路・仕事についての理解を深めると共に、適切な進路選択のためのサポートを行う ③	A		
		学校行事を事前に伝えることで、スケジュールや情報の整理・管理をする習慣の定着を図る ③	A		
	社会人に向けての意識改革	適切な行動をとれるよう、様々な場面で指導を行い「公共心」を育む ③④⑤	B		
		探究活動をとおり、社会に関心を持ち、広い視野で物事を捉え、自身の考えを表現する力を養う①②③	A		
		相手の話を「聞く力」、他者の意見を尊重し互いに高めあう「相互啓発力」を育む ③④	B		
	情報リテラシーの育成および ICT 活用能力	情報を収集・発信する場面において、その内容を正しく見極め、適切に伝える力を身につけられる能力を育てる ②④	B		
		タブレット端末を活用することで、「情報収集」・「整理」・「分析」をする能力を育てる ②	A		
		電子黒板の各種機能を活用することで、授業に積極的に参加する主体性を育てる ②	A		
	働き方改革の推進	業務の見直しと効率化を進め、時間外勤務の削減を図る ⑧	A		
第 2 学年	集団における生活習慣の確立	あいさつの励行や、時間・服装・提出物など基本的な生活習慣の定着を図るとともに、集団生活におけるマナーやルールを自覚的に守る意識の向上を図る ④⑥	A	A	全体評価は概ね良好に推移しているが、

* 評価基準 A: 十分達成できている B: 達成できている C: 概ね達成できている D: 不十分である E: できていない

令和7年度 県立常陸大宮高等学校自己評価表

	基礎学力の定着 および学びに向 かう態度の醸成	日々の授業や定期考査をととして基礎学力の定着を図るとともに、授業態度の改善や課題提出の徹底を通じて学びに向かう姿勢の育成を目指す。ICT 機器を活用して、基礎学力の向上・探究心の育成に努める。 ①②④	B		個別の課題が明確化した一年であった。今後は学年の良好な雰囲気気を維持しつつ、個々の課題に応じたきめ細かな指導を徹底する。また、集団の雰囲気気を個人の成長へと繋げていく。進路の如何を問わず、入学時からの目標である「自立」の定着を図り、高校生活の集大成としての指導を推進する。
	進路意識の高揚	進路に関する個別面談や情報提供を行い、適性・希望・実情を踏まえた進路選択の意識を高めるとともに、進路実現に向けた具体的行動を促す。 ・就職希望者：インターンシップ参加・求人票 ・進学希望者：2校以上のオープンキャンパス参加、他校比較、模試 ・未 決 定：インターンシップ参加、オープンキャンパス参加 ③	A		
	働き方改革の推進	授業や業務の効率化、会議の簡素化・時間厳守を図るとともに、教員間の連携と役割分担を明確にし、働きやすい職場環境づくりに努める。 ⑧	A		
第3学年	社会人として必要な基礎力の定着	計画的に行動することやキャリア意識の向上を図るとともに、定期的にキャリアプランの進捗、学習環境・状況の把握に努める。 ③⑥	A	A	・外部講師の活用などで身に付けた内容を実践及び探究する時間を設け、ふりかえる必要がある。 ・進路決定に向けて、スケジュールに余裕をもって行動できないことが多かった。学年のなかで生徒個々のスケジュール管理が容易にできるように、ICT ツールを活用する必要がある。
		進路実現に向けて自身の課題となる点を発見し、解決に向けて主体的に取り組む態度の醸成を図る。③	A		
		他者の意見を傾聴し、多様な考えを受け入れ、幅広い視野の獲得を図る。また、自身の考えを適切に分かりやすく表現する力を育成する。 ③⑤	B		
		様々な立場の人と接する機会や周囲の力を借りながら問題を解決したりする経験を通し、自立した社会人として生活できるよう自分自身をコントロールする力を育む。 ③④	B		
		マナーやモラル、ルールを遵守する態度を育み、社会を形成する一人の大人として責任感を持ち、倫理観のある言動・行動の習慣化を図る。 ③④	B		
	学力および ICT 活用能力の定着・ 向上	進路実現に向け、一般教養・一般常識の大切さを理解し、日々の授業や進路行事に積極的に取り組む意識を育む。 ②③	A		
		各教科担当者と連携し、授業や課外等でそれぞれの進路に応じた教養を身に付けられるよう支援を行う。 ②	A		
		ICT 機器を活用し、自身の進路に関する情報を適切に収集できるよう支援を行う。 ②③	A		
	キャリア教育の 充実	生徒や保護者等との面談を密に行い、将来像を明確にしたうえで進路活動を行い、自身の意思で進路決定および実現できるよう促す。 ③⑤	A		
		「シン発見」の学習を通して、それぞれの進路希望ごとに模擬面接や作文・小論文、一般教養や時事問題など進路実現および将来必要となる知識やスキルの習得など、進路実現の支援を行う。 ③	A		

* 評価基準 A: 十分達成できている B: 達成できている C: 概ね達成できている D: 不十分である E: できていない

令和 7 年度 県立常陸大宮高等学校自己評価表

		キャリアセミナーを通して、一人ひとりの望ましいキャリアを実現するための資質・能力を育成する。 ②⑤	B		
	働き方改革の推進	業務内容の見直しと効率化に取り組むことに加え、それぞれの資質を活かした業務の割り振りを行い、 時間外勤務の削減を図る。 ⑧	A		

* 評価基準 A: 十分達成できている B: 達成できている C: 概ね達成できている D: 不十分である E: できていない